

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 マアナゴ

学名 *Conger myriaster*

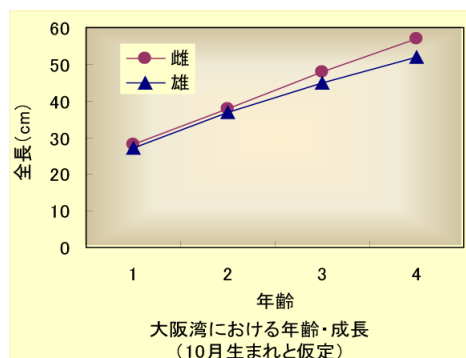
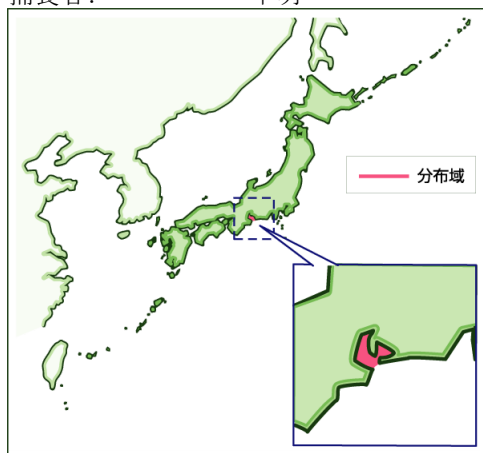
系群名 伊勢・三河湾

担当水研 中央水産研究所



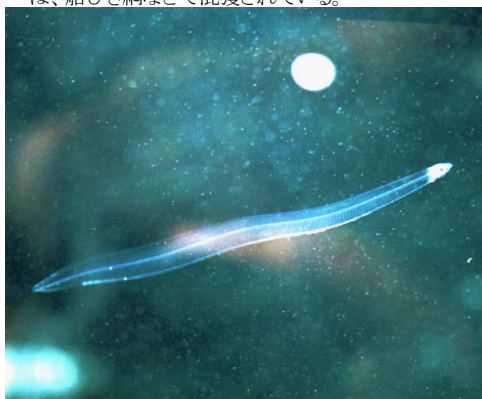
生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 不明、雌雄とも成熟個体が見つかっていない
産卵期・産卵場: 東シナ海等の我が国の南方海域が産卵場と想定されているが、産卵期は不明
索餌期・索餌場: 周年、伊勢・三河湾
食性: 小型の底性生物、エビ類、魚類、軟体類など、成長につれ多様化
捕食者: 大型化する
不明



漁業の特徴

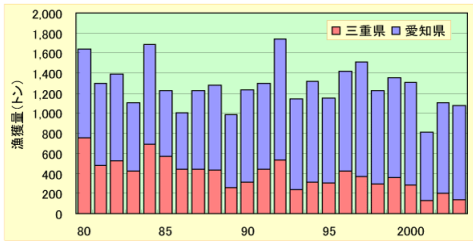
伊勢・三河湾における漁獲は主として、小型底びき網漁業、かご漁業により行われている。伊勢湾の三重県海域での小型底びき網の漁場は、湾奥部と湾口部を中心に、伊勢湾全域に形成される。かご漁業の漁場は、沿岸に沿って広く形成される。愛知県においては、知多地区の漁獲量が多い。また、本種の仔魚であるレプトケパルス(のれそれ)は、船びき網などで混獲されている。



マアナゴの仔魚(レプトケパルス)は「のれそれ」と呼ばれ、春季に湾内に来遊して船びき網などで混獲される。沿岸域に来遊する以前の生態は不明である。

漁獲の動向

愛知県と三重県の1980年以降の漁獲量は814～1,745トンの範囲で変動しているが、概ね1,000～1,500トンで安定して推移している。2001年は愛知県、三重県ともに過去24年間で最低となったが、その後漁獲量が再び1,000トンを超えたことから、一時的な減少に止まり資源は回復したものが見られる。



資源評価法

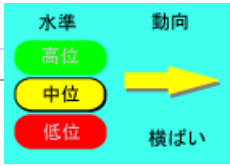
1980年以降の愛知県と三重県の漁獲量の経年変化から現在の資源状態を判断した。

資源状態

漁獲量は2001年に大きく減少したが、その後回復していることから、現在では資源水準は中位で安定しているものと考えられる。

管理方策

伊勢・三河湾のマアナゴは、水産庁が推進する資源回復計画の対象魚種に指定されており、小型底びき網に入網した小型魚の水揚げ禁止、再放流等の措置がとられている。本評価対象は、春季に仔魚として伊勢・三河湾内に来遊したものが、その年の秋～冬に漁獲加入し始め、翌年の春～夏に漁獲の中心となることから、加入量あたりの漁獲量増大を管理目標とすれば、秋冬漁期の小型魚を保護することが有効な管理方策となる。そのため、対象の漁業種類をあなご簞に拡大することも検討が必要である。さらに、「のれそれ」の漁獲はマアナゴ資源に対して影響を与える可能性があることから、仔魚も含めた資源管理措置についても今後検討する必要がある。



資源評価のまとめ

- 漁獲量の経年変化から判断して、伊勢・三河湾のマアナゴ資源は中位水準にある
- 伊勢・三河湾のマアナゴ資源量は、湾外から来遊する仔魚(のれそれ)の多寡により変動するものと推測される

管理方策のまとめ

- 加入量あたり漁獲量の増大が目標
- 秋冬漁期の小型魚の保護が有効な管理方策
- 「のれそれ」も含めた資源管理措置についても今後検討する必要
- 生物学的特性、漁獲特性等に関するデータの蓄積が必要

資源評価は毎年更新されます。